

「大田区海洋少年団創立 60 周年記念誌」に寄せて

東京都議会議員

育英会 神林 茂

大田区海洋少年団、創立 60 周年、誠におめでとうございます。

60 年間もの長期に亘り、海洋少年団を発展継続させた先輩諸氏の皆様方の志とご苦勞に対して、心から敬意を表します。

そして、60 周年を迎えるにあたっての何よりの財産が、海を愛し、友を愛し、国や地域を愛する志を持つ多くの若者たちが、この海洋少年団から旅立ち、社会の各種各層で活躍されていることだと思います。

私は、以前にもお話しさせていただきましたが、34 年前、私が初めて議員を目指した時の目標の一つに、「街の中に、青少年がスポーツや文化活動に自由に参加できる団体や施設がたくさんあったらいいなあ」、「お年寄りを地域の中で見守るボランティア活動が、当たり前のように地域に広まっていったらいいなあ」という強い思いがありました。

特に、映画や小説の 1 シーンのように、真っ青な海の沖で、おぼれる人の救助に、海を愛する青少年が力を合わせてボートを漕ぎ出していたり、街をあげてのお祝いごとに、子どもたちの音楽隊や鼓笛隊が、街を練り歩いて祝福する光景が、現実に私たちの街にあったら、どんなに素晴らしいだろうなあ、と思いを描いていました。

そして、私はこれを実現していくには、行政がどのようなバックアップをしていくことが望ましいかを、模索し続けてまいりました。

時代は変わり、科学技術が急速に進歩する昨今ですが、人と人との絆とか地域の結びつきって、そんなに変わるものでもないし、代わってほしくないとも思います。

これからも、大田区海洋少年団が益々発展され、海を愛する希望に満ちた多くの青少年が、世の中で大きく活躍されることを心から期待いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

熱い海の声に感謝

育英会副会長 石井 五六
(団設立 発起人)

大田区海洋少年団創立60周年を祝い、喜びを語る友のいることは幸いです。

還暦を迎えた団の躍動を、直視する感激は何事にも替え難い。この60年幾千人の人が関与し、幾万人の人々に感動を与えつゝ、海洋少年団は航海を続けてきた。若かりし友は海と語り、心に響かせた。海洋少年団創始の一念は見事に船出し、満帆に風を孕ませ航海日誌を書き続けている。

既刊の、団創立30周年記念誌には、大田区海洋少年団を母体とした、ブラスバンド音楽隊の結成を報じている。

アツと言う間に、日本海洋少年団連盟音楽隊に躍進、以来全国大会に出演し、大田区団の名声を一本のタクトに集め響かせている。日本連盟に、専属の音楽隊創設を認めさせた慧眼には、今更ながら敬服させられ、重ねて音楽隊結成30周年に祝意を表します。

ところで、大田区海洋少年団は「金太郎あめ」ではなく、どこを切っても違った絵が出てくる動画です。

10年前(創立50年)の航海日誌に、海洋少年団は地域社会にスッポリ溶け込み、各種奉仕活動に汗を流し、ヨット・カヌー等の一般乗船体験を公開している。

音楽隊は、吹奏楽を小学生に教える「こどもブラスバンド教室」を立ち上げている、小学校から響く楽音はこどもの演奏で、この10年吹奏楽を小学生に教える役割を担い、大田区吹奏楽連盟のご協力を得て継続している。

いま小学校の音楽教科に吹奏楽が復活してきたのは、「こどもブラスバンド教室」が大きな刺激になっている事は明らかである。近辺の中学校・高校等には質の高い吹奏楽部があり、底辺の拡大は更なる資質の向上に寄与する筈である。

さて、私は60年前羽田の海で、家業の海苔養殖業に従事しておりました。灯台のあった海苔場に和船で来て、水泳や手旗の訓練を行ない、釣りや潮干狩りのあと帰りは私が曳き船、イナやボラが勢いよく跳ね船に飛び込んでくると、大はしゃぎしていた事など思い出は多い。

団創立10年が過ぎ、東京オリンピック開催に伴うインフラ整備、空港拡張の埋め立て、河川の汚染・工業用水・油のタレ流し等により、「海の畑」は死滅し漁民は漁業権を放棄せざるを得ず、海苔養殖業も消えました。同時に私と団の関わりも「影の存在」となり、見守りを続けさせて貰いました。

これからも育英会の一員として、大田区海洋少年団及び音楽隊の飽くなき海への賛歌、高く揚げたマストの団旗のもと、波濤を越えて突き進む航海に幸あれと願いつゝ、記念誌発刊を祝します。「おめでとう！」

六十周年おめでとうございます

大田区議会議員
育英会 安藤 充

発足して今年、六十年目として大変輝かしい年であります。

日本社会は大きく変化し、豊かな社会になりましたが、人間関係が希薄になり、子供を取り巻く環境は大きく変化しています。

少子高齢化が叫ばれてから十数年たちますが、特に少子化になってからは、「体罰やいじめ」などが多発しており、青少年の犯罪や被害が増えています。核家族化も一因ではないかと考えられています。

大田区海洋少年団は社会教育の柱であり、地域に根差した活動をもとに、多摩川や海老取川が東京湾に繋がっています豊かな自然環境に恵まれ、海に親しんだりして現代社会に大切な健康で豊かな心と、いまでは失われつつあるしつけや、心身の強化などを子供達に日々鍛錬されています。

三年前の、三・一一で日本人が学んだ絆をもとに、団結して行く海洋国家として、これからも地域の誇りとして、本日を迎えられた関係各位のご努力に感謝と敬意を表し、大田区海洋少年団がますます発展されることをご祈念します。

六十周年おめでとうございます。

お祝いの言葉

糀谷地区自治会連合会会長

育英会会計監査 松原茂登樹

大田区海洋少年団創設六十周年及び大田区海洋少年団音楽隊創立三十周年、おめでとうございます。昭和二十七年の創立以来、半世紀以上にわたり栄えある功績を重ね、今日を迎えられたことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

これも歴代の団長や音楽隊長、団関係者の方々のご尽力の賜物と存じます。また、私たち日本人に親しみのある「海」とおして、社会生活に必要な道徳心を養った多くの立派な人材を、地域に輩出していただいていることを、大変感謝しております。

大田区団には、全国の海洋少年団で唯一の音楽隊が組織されているとのことで、その活動の一環である「こどもブラスバンド教室」という活動にご招待いただく機会がございます。この教室に参加した子どもたちが、練習や合宿、地域イベントなどへの参加をおして、成長していく様を目の当りにいたしますと、子どもたちの健全育成を目的とした社会教育活動の必要性を痛感いたします。

近年は、糀谷・羽田の地域外からも教室に参加されているとのことで、他校・他地域の子どもたちと地域の壁に縛られず、音楽をおして交友関係を深め、助け合い、励ましあいながら目標に向かって取り組む子どもたちの姿勢は、私たち大人も見習うべき姿です。

協調性、積極性、忍耐力、集中力等、社会に出る際に必要なさまざまな力を地域教育から学び、吸収することで、情操教育の一助となり、子どもたちが家庭や学校において、前向きに充実した生活を送れるものと考えます。心の豊かな人材を育成することは、現代社会にとって必要不可欠なことです。

糀谷地区では、糀谷のまちが誰からも「安心、安全で、幸せを感じられるまち」と思っただけよう、「防災」や「福祉」をはじめさまざまな取り組みを行なっています。

このような取り組みや思いを未来に継続させていくためにも、子どもたちは次世代を担う宝です。この宝である子どもたちを立派な大人に成長させる役割を担うのは、何も家庭教育や学校教育ではありません。

地域社会も率先して子どもたちと係わりを持ち、地域としても見守り、育て、地域教育として家庭や学校を補完することで、地域に貢献できる心の豊かな人材を育成し、その育った力が地域に還元されると私は考えます。子どもたちの健全育成は、未来に向けたすべての取組への第一歩です。

今後大田区海洋少年団ならびに大田区海洋少年団音楽隊が、七十周年、四十周年に向け、更なるご発展と地域に貢献する人材を送り出していただけることを期待しつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。

大田区海洋少年団 創立 60 周年によせて

宗教法人穴守稲荷神社

官司 矢野次男

大田区海洋少年団創立 60 周年おめでとうございます。

人の一生に値する長い期間「ちかい」「おきて」をゆるぎなく継承し、海洋少年団の維持運営に携わった多くの方々の熱意に、敬意を表します。

私ども穴守稲荷神社は、海洋少年団と縁浅からぬものがあります。三代目の団長である石井信氏は、長年当神社の神職として神明奉仕に就いておりました。したがって、部下であった私共どもは、海洋少年団の活動については垣間見る機会がしばしばありましたし、その下請け仕事をお手伝いしたこともありますので、常に身近な存在でした。この 30 年来、神社境内での訓練、年末の餅つき、音楽隊の演奏、社務所での会合等々を目の当たりにし、今に至るも、数多くの団員の皆様の風貌を思い浮かべることが出来ます。さぞかし当時幼顔の少年少女達は、現在逞しく変貌し、社会人あるいは学生としてご活躍のことと思います。

「檄を飛ばす」という言葉があります。文書により自分の主張を告げる意味なのですが、最近「激励する」「活を入れる」との意で大手マスコミでも誤用されることがあります。たとえば野球の試合などで「劣勢に陥った選手の円陣に、監督が檄を飛ばした結果一気に逆転した」などと使われます。本来の意味でその情景を想像すれば、選手も監督もスマートフォンを手に取り、眼前の相手に「ガンバレ」「オー」とでも打ち合っているのでしょうか。それは奇妙な風景ですが、電車の中、食事中、挙句の果てには歩行中にもスマートフォンを手放さない光景が珍しくない昨今、妙な説得力があります。ともすれば仮想現実にとり、人と人との間が希薄化する風潮を如実に現しています。

しかし、私どもが見てきた海洋少年団の活動では、訓練・練習を通じ様々な人間に直接接触して個人を形成し、バランスの取れた人間を社会に送り出すことが、長年に亘って行われ、大きな成果を残してきました。青少年に「個人の鍛錬の場」「社会的訓練の場」を提供し、更に「地域の人材を育成」する活動は、益々重要な意味を持つてくると思います。これから先も、大田区海洋少年団の伝統が受け継がれ、更に発展なされることを心より祈念いたします。

末筆ながら、当神社の年末年始に際しましては、厳寒の中でのお焚き上げ・交通整理に、長年に亘り多大なお力を賜り深く感謝申し上げます。

ご挨拶

公益社団法人日本水難救済会

理事長 向田 昌幸

大田区海洋少年団創立60周年誠におめでとうございます。

貴団におかれましては、日本海洋少年団連盟の創生期にあたる昭和27年7月に結団され、爾来、60年にわたり、海洋・海事思想の普及や社会教育活動等に多大な貢献をされてこられましたことに対し深甚なる敬意を表する次第であります。

また、社会奉仕活動の一環として、毎年、JR蒲田駅前において青い羽根募金の街頭募金活動を実施していただくなど私ども日本水難救済会の青い羽根募金にご協力を賜っていることに対し、厚く御礼申し上げます。

さて、四面を海に囲まれた我が国は、古来より海を通じ諸外国との交流の中で独自の文化を創造するとともに、海外との貿易を通じ世界有数の経済大国へと発展を遂げ、今日では物流を支える海上交通、食を支える漁業活動及び各種マリレジャーなどさまざまな形で海と極めて深いかかわりを有しており、更には、科学技術の進歩により、近い将来には燃える氷といわれるメタンハイドレート等海洋エネルギー資源やマンガン、コバルト等のレアメタルを豊富に含む海底鉱物資源の開発が展望されるなど海の重要性が一層増すものと思っているところです。

一方、近年では、物質的に豊かになったものの、小学校の臨海学校などの海浜での実地教育の機会が減ったせいか、若者の「海離れ」が進み、海を恐れる若者が増えているということがテレビや新聞で報道されているほか、子供同士の遊びや自然との実体験の不足などが虐めや人との対面接触が不得手な若者の増加の一因になっているのではないかとといった見方もあります。

このような状況の中、海洋少年団の中で唯一の大田区海洋少年団音楽隊が「海の大切さ」を国民に呼びかけるとともに、子供の時から海に親しみ、団体生活を通して社会生活に必要な道徳心を養い、心身ともに健康でたくましい人間を育成していこうとされていることは、まさに時宜を得たすばらしい取り組みであると敬服しているところであります。

日本は赤道周りで地球一周の約9割にも達する長大な海岸線を有しており、全国津々浦々では総勢約5万4千名ものボランティア救助員の皆さんが昼夜を分かたず海で遭難した人の救助に勤しんでいます。日本水難救済会はそうしたボランティア救助員の活動を支える様々な事業を展開しております。日本は古来より海に依って立ってきた小さな島国ですが、今や世界第6位の広さを誇る日本の領海や排他的経済水域は豊かな水産資源や鉱物資源にも恵まれており、今後とも海洋を舞台とした活動が一段と活発化してくるものと推測されますところ、貴団をはじめ全国の海洋少年団員の中からともに海洋立国を支える有為な人材が多く育っていくことを心より期待する次第です。

終わりに、大田区海洋少年団の益々のご発展、指導者や関係者の皆様のご健勝、並びに、団員である少年少女たちの大いなる飛躍を祈念致しまして、私の挨拶とさせて戴きます。

大田区海洋少年団結団60周年をお祝いして

日本海洋少年団東京地区連盟

会長 藤田 光信

大田区海洋少年団の結団60周年、誠におめでとうございます。

昭和27年7月20日に「海を大地とし、海に親しみ・楽しみながら心身を鍛え、海洋国民として健全な社会人を育て」、と海洋少年団ができ、その志が大田区の地に芽生え、今や立派に成長された貴団に改めて敬意を表すと共に、心からお祝い申し上げます。

結団60周年、ここに至るまで、数多くの困難やご苦労があった事と思います。

戦後間もない、困難な時代に結団されましたが、良き指導者と理解者を得て、営々と60年の輝かしい歴史と実績を積み重ね、ここまで発展されたことは、師資相承の血潮が熱き先達のかたがた、世代は移り、人は変われども、乱れぬ団結を胸に抱いた指導者のかたがた、そして誓と掟を守り、確固たる大田区海洋少年団を築いて来た団員諸君と家族、そして地域のかたがたの深い理解と愛情を抜きには考えられません。

結団当時と現在では、自然環境や社会環境が大きく変わってきており、自然のなかで子どもたちが心身を鍛える機会は大変少なくなっております。

しかしながら、今の子どもたちこそ新しい時代を支える世代であり、その健やかな成長を図ることは海洋少年団の大きな課題でもあります。

日本は昔から、海洋国として海洋に学び、活躍してきましたが、私たちの前に広がる大海は、大自然の厳しさを持つと同時に、人々に大きな夢と心を与えてくれます。

海を人間形成の場として、様々な体験と訓練を通じて心身ともにたくましく育て、地域社会に貢献している大田区海洋少年団は他の少年団の模範であると共に、とても心強く思います。

今後とも、海のロマンを忘れずに、海から学び、海に親しみ、海のように大きく育てと願っております。

輝かしい大田区海洋少年団がここに60年の足跡を記し、更に発展・勇躍されますことを心からご期待申し上げます、お祝いの言葉とさせて戴きます。

創立60周年に寄せて

大田区海洋少年団育英会

副会長 望月 靖弘

大田区海洋少年団が創立60周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

創立されました昭和27年は戦後間もなく、社会状況や経済情勢も安定されない時期でした。

その様な状況の中で、熱い想いを持って創団を決意された関係者諸氏に、心より敬意を表させて戴きます。

近年子ども達を取り巻く環境も、当時とは大きく変化しています。

本年も、東京オリンピック青少年センターや、豊洲ららぽーと・東京海洋大学等で、第51回全国大会が行われ、大田区団が実行委員会の中核になり、開会式等に於いては進行役を務められたとの事、大いに誇りと思っています。

今後とも、団員及び関係者が一体となり、益々発展される事をご祈念申し上げ、60周年のお祝いの言葉とさせて戴きます。

60周年を迎えて

大田区海洋少年団

本隊隊長 増田隆久

(育英会 会計兼務)

私が入団したのは、中学校1年生の頃で30年ぐらい前の事でした。

今に比べると遅い入団でしたので、団員としての活動は短かったのですが、卒団して指導者・隊長としての活動は、振り返ってみるともう25年以上たちました。

60周年の半分近くを、力不足ですがお手伝いさせていただきました。

結団60周年記念式典を迎えて、振り返ってみれば長いようでも、あっという間の30年でした。この間に、大勢の子供たちが、私の元を通り過ぎ育ってきました。

様々な子供たちがいました、またたくさんの思い出や、歴史を築き上げてきました。

そしてまた、皆様からのご指導や地域社会への関わりなど、それらの全てが私の肥やしとなり、きょうまで続けられた事に感謝しております。

今後も大田区海洋少年団の繁栄のためにがんばって生きたいと思います。

最後になりましたが、私の前を歩む諸先輩方が築き上げてきた、この大田区海洋少年団60年の灯火を絶やす事なく、次の世代へつなげていきたいと思っています。

音楽隊と私この10年

大田区海洋少年団音楽隊
音楽長 本間 道夫

平成15年10月・穴守稲荷会館、大田区海洋少年団50周年・大田区海洋少年団音楽隊20周年記念式典に、大田区吹奏楽連盟会長として、ご招待いただいてから早くも10年。

格式を重んじながらも、和やかな式典と祝賀会が思い出されます。

楽長代行の横田早苗さん指揮による音楽隊の演奏。佐藤隊長もこの一連の行事の後、入院手術との事を伺いました。

平成16年6月、佐藤隊長の術後の経過も良く、音楽隊の練習に見えられるとの事で、練習会場へご挨拶に伺ったところ、是非音楽長にとの熱意のこもった招請をいただき、7月に音楽長に就任。横田代行の傍ら、徐々にリハーサルを重ね、先ず最初に取り組んだのは最も基礎となる音階練習でした。11月吹奏楽祭、指揮は横田さん。

17年5月、佐藤隊長宿望の音楽隊主催による「こどもブラスバンド教室」が、東糀谷小学校を会場に開講。数年に亘る準備と地域社会、関連小学校(長)、区教育委員会等への理解と了解・認可、後援等の取付に心血を注いでこられ、その達成の喜びは如何ばかりだったでしょうか。

主催団体の音楽長として、また共催事業として指導講師の派遣を行なう、大田区吹奏楽連盟会長として、この教室の室長を私が仰せつかり、今日に至っています。

8月全国大会豊橋大会。パレード、開会式等で演奏。11月吹奏楽祭、指揮は副楽長の小杉翠さん。音楽隊の訓練も徐々にレベルアップを図りながら、相変わらず音階練習を徹底。

18年11月吹奏楽祭。開会式でこどもブラスが特別出演。また音楽隊・こどもブラスの合同演奏。吹連共催事業として報告演奏と同時に、区民へのこどもブラスの紹介。指揮は音楽長の私。以後こどもブラス、音楽隊の指揮は楽長の私が行ない今日に至っている。以下全国大会について。

19年8月千葉大会。記念演奏後、名誉総裁高円宮妃殿下が自席よりお降りになり、隊員に直接労いのお言葉をかけて下さり、隊員一同大感激。アンコールのご所望もあり再演する。

23年7月鹿児島大会。現地の川辺高校吹奏楽部員7名が賛助出演。パレードと開・閉会式の演奏。

今年、25年8月久々の東京大会。開・閉会式の演奏、マーチ4曲で。

最後に音楽隊の今。こどもブラス修了生が毎年入隊し、演奏技量も向上、現在26名にまで拡充。隊の養成機関として教室の開設が、所期の目的を見事に達成している。

還暦、そして古希へ

OSF会 内山 隆雄

大田区海洋少年団結団 60 周年おめでとうございます。

時を同じくして、私も 8 月に還暦を迎えましたので、1963 年（s 38 年）7 月に入団以来、海洋少年団歴も 50 年となり、団と共に記念すべき年になりました。

還暦と言え、干支がひと回りして生まれた時のものに戻ること。言い換えれば「原点に還る」と言うことかも知れません。

入団当時、大田区海洋少年団には多くの団員がおり、往時は 3 万余人を誇った団員も、現在では 3 千人弱に減少し、全国の多くの団が無くなったのはとても寂しいことで、団員確保は今も昔も、各団が抱える大きな課題です。

原因として考えられるのは、少子化による子供の絶対数減少と、勉学優先からでしょうか。ゆとり教育が見直され、道徳教育が議論されている昨今です。

どんなに世の中が変わろうと、人としての基本（原点）が変わることはなく、礼儀作法や思いやり、そしてコミュニケーション能力が、一定年令までに形成されていなければなりません。いずれ、子供たちにも社会に出る日が来て、更には良き伴侶を見つけ家庭を持ち、親になる日が来るでしょう。人間形成の場として、海洋少年団をはじめとする、社会教育団体が担う役割は少なくありません。

私は、長年旅行会社に勤務し、多くのお客様の旅行のお手伝いをしてきました。

旅行と言うと、とかく「物見遊山」だと思われがちですが、観光（旅行）と言う言葉の語源は「易経」の『国の光を観る、用いて王に賓たるに利し。』だそうです。観光の目的のひとつは、知らない土地を訪ね、人々との交流親睦、知識や見聞を広め、優れた部分を見て聞いて学び、それらを自身の血や肉として活かすことです。

海洋少年団は、そう言う意味での観光の場として「ONE for ALL」「ALL for ONE」、（ここでは、ひとりと言うことだけでは無く、勝利や目標と解釈）を体得する中で、家庭や学校とは異なる交流・親睦や知識、見聞を広め、培われる絆や友情、そして豊かな心を養って欲しい。それらは人として、彼ら彼女らが社会人になり、親となった時にきっと大きな宝になることでしょう。

この夏、東京で行われた第 51 回全国大会では、OSF 会（卒団者の会）のメンバーの多くが実行委員として、その運営に携わり活躍しました。各人が己の役目を理解し、全国から集まった団員ひとり一人の笑顔と友情、そして団員ひとり一人の思い出作りをお手伝いするために・・・

多くの団員を育て続けた、大田区海洋少年団 60 年の活動は大きな足跡です。これからも大田区団は、多くの団員たちの笑顔が溢れ、楽しくもきびしい「みどりの広場」であり続けることでしょう。還暦の次に迎える節目は「古希」。団も私も、そして OSF や団をご支援戴いている全ての方々が、次の 10 年に繋ぐ努力を惜しまず、元気にその日を迎えられますように・・・と祈念して結びとします。